

# 街に行く

第76回 八幡浜 Yawatahama

## 優しい気分で散歩できる街

今回の舞台は四国・松山の西に位置する漁港「八幡浜」。松山駅から宇和島方面へ電車で一時間ほど揺られた所にあります。訪れる機会はほぼなかったのですが、縁(運?)あって正月にやってきました。

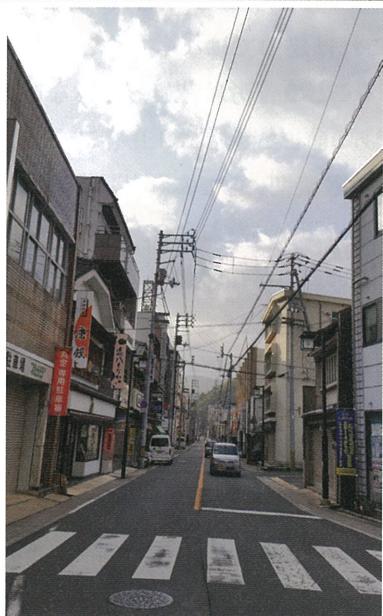
ここ八幡浜は、かつて海産物の生産と取引で賑わい、古くは「伊予の大阪」とも呼ばれ、四国の交流・交易活動の拠点として繁栄した輝かしい過去を持っています。今も四国最大の漁港ですが繁栄はしていません。日本全国の地方都市の街はどこも同じく、昔は賑わっていたもの。その繁栄を取り戻すことは簡単ではなく、ましてや産業を新たに立ち上げることなど並大抵ではありません。

小生は、かつて繁栄した八幡浜の足跡を辿ってみたいと周辺を散歩することにしました。その道すがら、とても感じの良いお寺を見つけました。臨済宗妙心寺派「大法寺」という江戸時代からの名刹で、高台にあり立派な石垣に囲まれた建物を構えています。境内にはマリア観音像が安置され、どうやら隠れキリストン信仰の拠り所だったようです。

訪れた時は早朝でしたが、境内には檀家の方々が集まって掃除をしていました。信仰が地域社会にしっかりと根付き維持運営されていることがよく分かります。もともとお寺というのは檀家が力を合わせて運営を支えるのが本来のすがた。でもこんな光景は日本ではすっかり見られなくなりました。檀家制度、人ととの関係性が薄れている現在、地方都市を訪れたときに感じる懐



檀家がお寺の境内を掃除している風景はいまでは珍しい。かつての繁栄はもうないが、人ととの関係性を残す優しい街である



かしさと新鮮さは、われわれが失いつつあって、でも失ってはいけない日本の美なのでしょうね。

散歩中、八幡浜の漁港としての顔が立ち並ぶ「じゃこてん」や「蒲鉾」の店を通して見えてきます。頬に当たる風が冬の漁港らしからず、とても優しいのが印象的です。そう感じるのは、普段東京で、興奮と緊迫感を含む重い空気を吸っているからかもしれません。東京の重たい空気は居るだけでも肩が凝りますよ。

最後に食ですが、オススメは「鯛めし」です。普通の鯛めしとは違い、生の切り身をご飯に乗せ、そこに生卵を研いた出汁をぶっ掛けるというのがこの地のスタイル。名物にはもうひとつ「八幡浜ちゃんぽん」があります。これはスープがとても美味しい! そうそう、甘いミカンも強く印象に残っていますよ。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エースト・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。